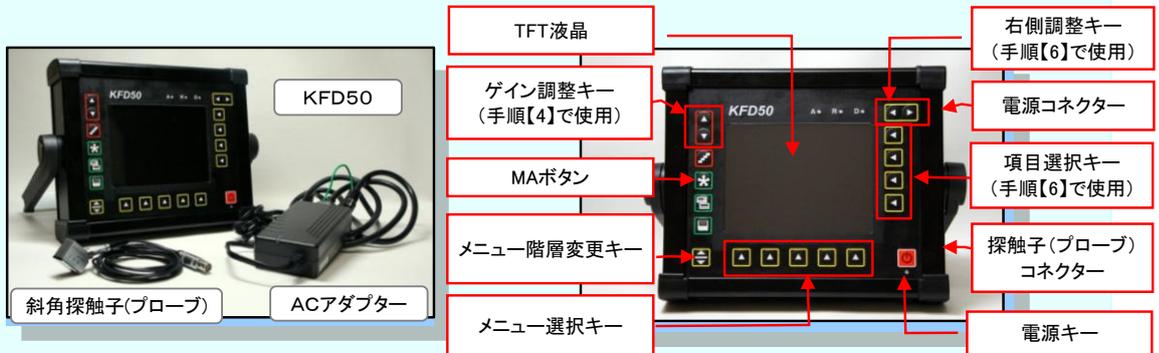


# KFD50 (DAC線)

製品案内 超音波探傷器 簡易取扱説明書 DAC線の作成方法 (STB-A2試験片)

## 1 概要

- 事前の準備
- DAC線作成



## 2 事前の準備

### 事前に行う設定

1

- ①入射点の測定
- ②測定範囲の調整
- ③STB屈折角の測定

入射点・測定範囲・屈折角の設定方法は、KFD50(斜角探傷70度)を参照ください。

### メニュー構成 (DAC線作成前に確認してください)

□ : 重要度: 高  
■ : 重要度: 低

2

#### <メニュー: 第1階層>

| 基本   | 送信部      | 受信部     | ゲート (a) |          | ゲート (b)     |             |
|------|----------|---------|---------|----------|-------------|-------------|
| 測定範囲 | 125.0 mm | ダンピング 低 | dBステップ  | 20.0 dB  | ゲート評価 正     | ゲート評価 オフ    |
| 音速   | ※        | 送信出力 高  | リジェクト   | 0%       | a起点 80.00mm | b起点 80.00mm |
| デレイ  | 0.00 uS  | 二探触子 オフ | 受信周波数   | 2.0 - 20 | a幅 20.00mm  | b幅 50.00mm  |
| 0点調整 | ※        | AGC 80% | 波形表示    | 全波       | a高さ 10%     | b高さ 10%     |

#### <メニュー: 第2階層>

| 校正    | JDAC      | 斜角          | 保存         | データ    |
|-------|-----------|-------------|------------|--------|
| 基準路程1 | 100.00 mm | 区分線 H       | 屈折角        | ※      |
| 基準路程2 | 200.00 mm | DAC オフ      | 入射点        | ※      |
| a起点   | 80.00mm   | DACエコ 0     | スキップ       | 0      |
| 校正    | オフ        | a起点 80.00mm | 板厚 15.00mm | 削除 オフ  |
|       |           | 感度調整 0.0 dB | 外径 平面      | 全削除 オフ |
|       |           | 区分幅 6.0 dB  |            |        |

#### <メニュー: 第3階層>

| 設定1   | 表示値  | LCD        | 設定2  | 設定3 |
|-------|------|------------|------|-----|
| ビーム路程 | ピーク  | 表示位置 1 Sa  | 強調表示 | オフ  |
| 測定値表示 | Sa   | 表示位置 2 Ha% | 表示色  | 1   |
| 拡大ゲート | A    | 表示位置 3 Sb  | ライト  | 0   |
| ASコープ | MA表示 | 表示位置 4 Hb% | グリッド | 0   |
|       |      | スケール       | 測定値  | 時間  |

※音速、0点調整、屈折角、入射点には、「2-1. 事前に行う設定」で求めた数値が入ります。

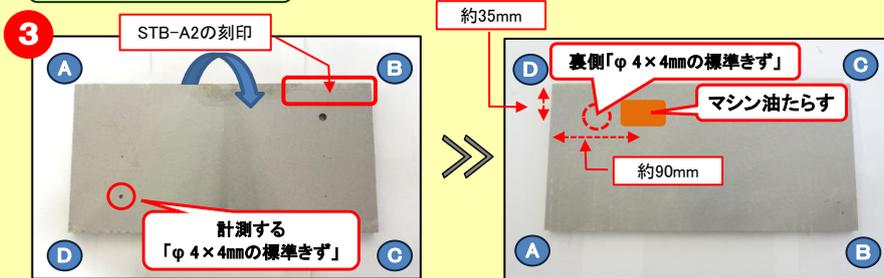
# KFD50 (DAC線)

製品案内 超音波探傷器 簡易取扱説明書 DAC線の作成方法 (STB-A2試験片)



## DAC線作成

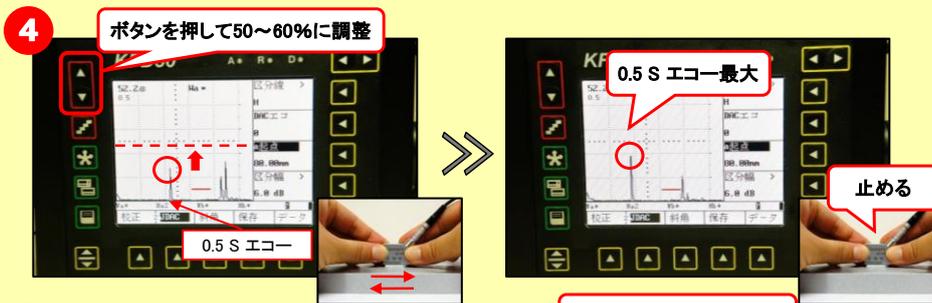
### DACエコー 1点目



STB-A2のφ 4 × 4mmの標準きずを使用してDAC線を作成する。DAC線作成前に標準きずの位置を確認しておく。

φ 4 × 4mmの標準きずを0.5S(スキップ)点、1.0S点、1.5S点の三点で探傷する。

図を参照してSTB-A2試験片を裏返し、上から約35mm、左から約90mmの位置にマシン油を塗布する。



マシン油を塗布した位置に斜角探触子を接触させ、0.5Sエコーが表示される位置を探す。

エコーが現れたことを確認し、左上の「」キーを押し、0.5Sエコー高さを50~60%に調整する。

更に前後走査、左右走査、首振り走査を行い、最大エコー高さ位置で斜角探触子を止める。



左上の「」キーを押し、エコー高さを80%の高さに調整する。



項目選択キーの「a起点 」キーを1回押す。「」キーでゲートを0.5Sエコーに移動する。



「DACエコー 」キーを2回押す。0.5Sエコーが記録され、DACエコー項目内の数字が「0」から「1」へと表示が切り替わる。

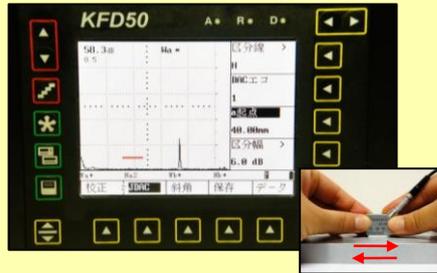
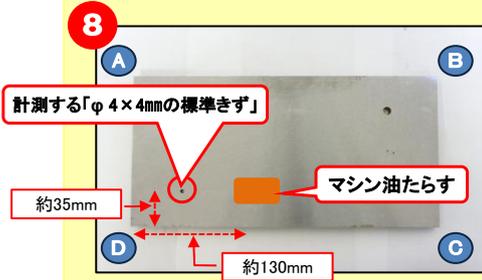
※この時に表示されているゲイン値(今回の例では58.3dB)が、基準のゲイン値となるので、メモを取る。

# KFD50 (DAC線)

製品案内 超音波探傷器 簡易取扱説明書 DAC線の作成方法 (STB-A2試験片)

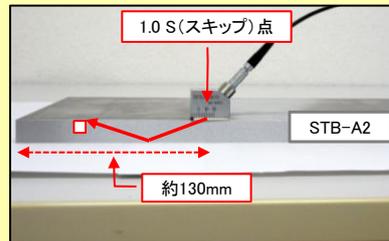
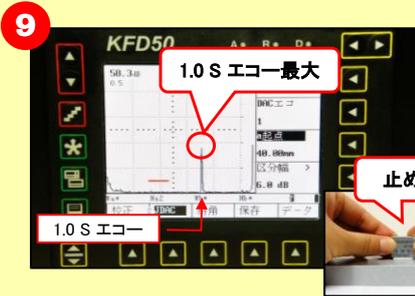
## 3 DAC線作成

### DACエコー 2点目



図を参照してSTB-A2試験片を裏返し、下から約35mm、左から約120mmの位置にマシン油を塗布する。

マシン油を塗布した位置に斜角探触子を接触させ、1.0Sエコーが表示される位置を探す。



エコーが現れたことを確認し、前後走査、左右走査、首振り走査を行い、1.0Sエコーの最大エコー高さ位置で斜角探触子を止める。



「」キーでゲートを1.0Sエコーに移動する。



「DACエコー 」キーを2回押す。1.0Sエコーが記録され、DACエコー項目内の数字が「1」から「2」へと表示が切り替わる。

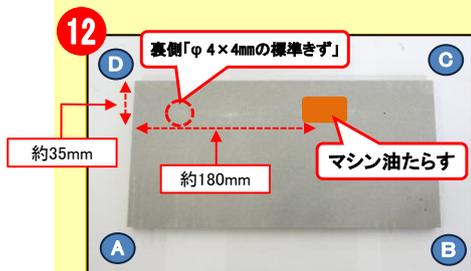
# KFD50 (DAC線)

製品案内 超音波探傷器 簡易取扱説明書 DAC線の作成方法 (STB-A2試験片)

3

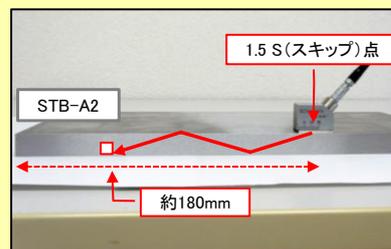
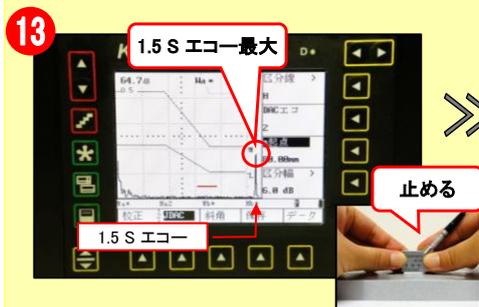
## DAC線作成

### DACエコー 3点目



図を参照してSTB-A2試験片を裏返し、上から約35mm、左から約180mmの位置にマシン油を塗布する。

マシン油を塗布した位置に斜角探触子を接触させ、1.5Sエコーが表示される位置を探す。



エコーが現れたことを確認し、前後走査、左右走査、首振り走査を行い、1.5Sエコーの最大エコー高さ位置で斜角探触子を止める。



「」キーでゲートを1.5Sエコーに移動する。

「DACエコー 」キーを2回押す。1.5Sエコーが記録され、DACエコー項目内の数字が「2」から「3」へと表示が切り替わる。



「」キーを押し、事前に確認しておいた基準のゲイン値(今回の例では58.3dB)に調整をする。

DAC線の全体図を確認する。